

◆ 土木学会 コンクリート研究小委員会(356委員会)が表記テーマのシンポジウム開催

- (1) 養生による効果に関する定量的評価
- (2) 養生の現状と課題および今後の方向性
- (3) 耐久性確保のための養生のあり方に関するケーススタディー
- (4) 耐久性確保、向上のための養生に関する提案
に関するご発表と熱心な討論がなされました。

シンポジウム論文集の中で横浜国立大学細田委員長の「耐久性確保のための養生」と題した論文では、吉田徳次郎博士の養生に関する記述を引用されていました。

『養生作業は、コンクリート施工の最後の作業であり、最後の努力をなすべき作業である。養生作業の如何により、施工者のコンクリートに対する智識と、工事施工の良否とを判断し得る場合が多い。』

まさに共感できるお言葉です。

また、「湿潤養生を28日間するから品質が向上する」という半ば思考停止の技術提案がまかり通ったり、本当は標準的な養生を超えた追加の養生が必要なのに、なされないために現実の構造物では劣化が生じている場合も存在する。

とも述べておられます。

アクアカーテンは給水養生ですので、1週間も養生してあげればコンクリートは立派に成長します。養生の目的と方法を間違えないようにお願いいたします。

養生の現状を把握した上で明らかとなった代表的な課題として、一例を示します。

- ・コンクリート標準示方書に記述された「使用するセメントの種類や養生時の環境温度によって異なるので、湿潤養生期間は、これらを勘案して適切に定める必要がある。」が実施されておらず、標準期間を遵守することのみが実施されている。
- ・現場で何を意図して養生方法や養生期間を決定しているのか不明確。
- ・耐久性向上のための養生という認識が少なく、ひび割れ抑制の認識が高い。

アクアカーテンを用いた給水養生は、種々の湿潤養生工法の中で最も効果的な方法であることは間違いありません。養生期間をいたずらに延長するのではなく、使用するセメントの種類や環境温度に応じて最適な養生期間を選定しましょう。